

(様式4)

令和4年度 自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立羽合小学校

校長名 谷 口 章 人 印

1. 学校の教育目標

「やさしく かしく たくたくましく」
～仲間とともに 地域とともに 未来を切り開く子どもの育成～

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 落ち着いた生活の中で、「個」と「集団」の力を伸ばす。
- 育てたい（育てなければならない）資質・能力が身につく授業改善を進める。
- 地域とつながり、地域に根ざした教育活動を充実させる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由
(1) 心を耕し豊かな心を育む 【やさしく】 ○友だちを大切にしたり関わり B ・「誰にでも自分からあいさつをしている」→80%以上 ・「友だちをよぶときは、『さんづけ』をしている」→93%以上 ・「友だちに対してていねいな言葉を使っている」→80%以上 ○あたたかい学級づくり B ◇hyper-QU 結果 ・「クラスの人協力したり応援したりしてくれる」(上学年)、「何かをしようとする時クラスの人協力してくれる」(下学年)→85%以上 ・「みんなのためになることを見つけて実行している」(上学年)、「誰かが困っている時自分から手伝いをしている」(下学年)→85%以上	B	→ 中間期74.2% 後期77.5% ・前期のあいさつ運動や、各クラスで決めたあいさつの取り組みを通して、学級でのあいさつが増えてきた。一方で、「誰にでも」というところまでは到達できていない。 → 中間期92.3% 後期93.7% → 中間期96.0% 後期96.6% ・アンケート結果と、日々の姿に差がある。どのような場でも、ていねいな言葉が使えるような働きかけに、さらに力を入れる必要がある。 → 中間期83.3% 後期84.6% → 中間期83.4% 後期86.7% ・クラス会議や、いいところみつけ、係活動など、友だちと意見を交換したり、相手を認めたりする場を多く取り入れることで、児童同士の関わりが増え、あたたかい学級づくりが進んだ。また、話し合うことに対して抵抗をなくしていくことで、話し合いが楽しいと思える児童や、友だちの意見や提案を肯定的に受け入れ

(様式4)

		る児童が増えてきた。一方で、意見を出す児童が固定化されないよう配慮しなければならないという課題もあった。
(2) 未来を切り開く資質・能力の育成 【かしこく】 ○ICT機器の効果的な活用 B ◇学級担任：ICT機器の使用についてのアンケート ・ICT機器の活用の仕方を知ることができたか→85%以上 ・情報教育 年間指導計画の重点項目が実施できたか →85%以上 ◇児童：情報機器の活用能力アンケート ～タブレットを使って～ ・ペンを使って操作できる(低学年) →85%以上 ・ローマ字入力ができる(中、高学年) →各85%以上 ・発表スライドができる(高学年) →85%以上 ○基礎・基本の定着 B ・算数科における計算領域 単元テスト「知識・技能」の得点率 →80%以上 ・学期末のまとめテスト 計算領域の得点率 →85%以上	B	→ 中間期90% 後期77.8% → 中間期73% 後期80.7% ・発達段階における情報モラルの指導事項をより具体的に焦点化したことで、教員が指導事項を明確にし、指導することができつつある。 → 中間期97.3% 後期97.0% → 中間期73.5% 後期86.0% (中学年) → 中間期96.4% 後期96.4% (高学年) → 中間期94.1% 後期96.4% ・すべての項目で、中間評価時と同等、またはそれを上回る肯定的な回答を得ることができた。児童は、ICT機器に触れる機会が多いほど、活用技能が向上していくため、今後も計画的にタブレット端末を活用していく。 → 中間期83.8% 後期84.2% → 中間期85.7% 後期80.6% ・朝学習の成果として、1年間継続して取り組んできたことで児童の基礎・基本的な計算技能は定着しつつある。確実に計算する技能が高まってきたので、次はすばやく判断し、計算できる力を高めていくことができるよう取り組みを工夫していく。 ・学期末テストの得点率が中間評価時よりも下がっているため、それぞれの学年で学習した内容全体をしっかりと復習し、次の学年の学習へと繋げていく。
(3) 健康でたくましい心と体づくり 【たくましく】 ○基本的な生活習慣の定着 B ・ワークシートの回収率 →85%以上	A	→ 中間期、後期ともにほとんど回収できた。

(様式4)

・ぐっすりデーの達成率 → 85%以上 ・ハワイふれあいデーの結果 → 85%以上 ○体力の向上 A ・体育アンケート 運動することが楽しい → 85%以上 ・保護者アンケート お子さんは学校で元気に体を動かしている。(運動している。) → 85%以上 ・短時間運動プログラムに取り組むことができたか。 ・体力テストの考察を指導に生かしたか。 ○あきらめず粘り強く取り組む児童の育成 A ・だいじ掃除にがんばっているか。 児童アンケート→ 85%以上		→ 中間期 85.1% 後期 88.3% → 中間期 64.6% 後期 69.3% ・ぐっすりデーやハワイふれあいデーは、児童や家庭に呼びかけ続けたことで成果がでてきた。ワークシートの回収率も高かった。 → 中間期 92.0% 後期 91.0% ・スポーツ教室は全学年実施できた。来年度は、予算や状況に応じて、できる形で実施していきたい。 ・体育や体を使った遊びが好きな児童が多くなった。 → 中間期 81.8% 後期 82.1% ・水泳や陸上などの大会が中止になり、保護者に運動している様子を伝える機会が少なかった。学年通信等を活用し、児童が活動している様子を伝える必要がある。 → 短時間運動プログラム(チャレトレ)を継続したこと、新体力テストの柔軟領域で成果があった。 ・積み上げてきた成果なので、来年度も継続していきたい。 → 中間期 94.6% 後期 94.6% ・掃除をねばり強くがんばる児童が多かった。 ・「ねばり強くがんばる」姿を具体化するのが難しいと感じた。来年度は、月目標と照らし合わせて評価に繋げていく。
(4)地域とともにある学校づくり【開かれた学校】 ○積極的な情報発信 B ・学校は、参観日や各種たよりやホームページなどで、子どもたちの様子をよく伝えている。 保護者アンケート → 90%以上 ○地域に学ぶふるさと教育の推進 B ・単元計画に基づき、地域の人、もの、ことと深く関わる学習ができたか。	B	→ 中間期 82.5% 後期 86.0% ・年間100回以上のペースで学校ホームページを更新したり、適時各種たよりを発行したりするとともに、できる形で参観日を開催することができ、前期以上に学校の様子をお伝えすることができた。 → 中間期 94.6% 後期 94.6% ・年間計画に基づき授業にゲストティーチャーを呼んだり学校支援ボランティアが日常的に入ってくれたりし、地域のひと、もの、ことと関わる学習がコロナ禍の中でも可能な限り実施できた。 ・こども園とも連携し新1年生となる年長児に学校の様子を伝えるため、学校紹介映像や説明資料を作成し、情報発信に努めた。(5年生)

(様式4)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	・新型コロナウイルス感染症の流行により、大きな行事を中止したり規模を縮小したりしなければならぬ中での学校経営・学校運営が続いたが、開催の工夫や保護者の理解等もあり、概ね目標とする数値を達成することができた。 ・特に後期の保護者アンケートでは「学校は」が主語となる質問項目の全てにおいて、前期を上回る肯定的評価をいただいた。 ・タブレット端末の活用をはじめとするＩＣＴ機器の活用が進んだ。 ・コロナ禍の中で保護者に児童の学習や生活の様子を具体的に見ていただく回数に限られていた。適時、的確なさらなる情報発信が求められる。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
友だちを大切にしたい関わり（誰にでもあいさつ）	・各クラスの取組みを全校に拡充。 ・自己評価だけではなく、他者評価も検討。
基礎・基本の定着（すばやく判断し、計算できる力）	・学習内容の復習の徹底。 ・タブレット端末の活用。
あきらめず粘り強く取り組む姿	・「ねばり強くがんばる」姿の具体化。 ・月目標と照らし合わせた評価の実施。